

公益財団法人千里リサイクルプラザ令和元年定時評議員会議事録

1. 開催日時 令和元年5月29日(水) 午前10時00分から同11時00分
2. 開催場所 吹田商工会議所会館 2階 第1会議室
3. 評議員現在数 9名
4. 評議員定足数 5名
5. 出席評議員数 5名
(出席評議員) 内田 慶市 大江 尚子 坂田 俊之 中嶋 勝宏
三輪 信哉
(欠席評議員) 佐藤 誠 曾呂利 晴彦 高田 仁 深野 裕一
6. 出席理事 西川 俊孝 門脇 則子 山口 耕右 小南 康隆
柴田 仁 土屋 正春
7. 出席監事 中川 孝基 藤原 忠
8. 会議の目的事項
決議事項 第1号議案 平成30年度(2018年度)事業報告及び決算の件
第2号議案 評議員3名選任の件
第3号議案 理事8名選任の件
報告事項 (1)平成30年第3回理事会決議等について
(2)平成30年第4回理事会報告等について
(3)平成31年第1回理事会決議等について
(4)令和元年度第1回理事会決議等について

9. 会議の概要

(1) 議長の確認

西川俊孝理事長の挨拶後、冒頭で山口耕右事務局長が司会となり、議事の進行に先立ち、定款第19条に定める評議員の互選による議長の選出について諮ったところ、満場一致をもって内田慶市評議員が議長に選出された。

(2) 定足数の確認

議長は、総評議員数9名のうち出席評議員数が5名であることを確認し、定足数を満たしているため、本日の評議員会が有効に成立していることを報告した。

(3) 議事録署名人の指名

議長が本日の議案の審議に入る前に、議事録署名人として坂田俊之評議員及び三輪信哉評議員を指名した。

(4) 議案の審議状況及び議決結果

①第1号議案 平成30年度(2018年度)事業報告及び決算の件

議長が、第1号議案を議題とし、事務局に説明を求めたところ、山口耕右事務局長が、この議案については定款第8条第1項に定める監事の監査を受け理事会の承認を受けたので、評議員会の議決を求める旨を説明、事業報告については天野美晴参事、安田典彦主幹が、決算書類については中島佳子主査がそれぞれ議案書を基に順次説明を行った。

続いて、議長の求めに応じて藤原忠監事より、監査意見として、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めること、理事の職務の執行に関する不正の行為

または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないこと、また、計算書類及び附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び正味財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める旨の監査報告があった。

議長が一同に採決を諮ったところ、満場一致をもって第1号議案は承認可決された。

②第2号議案 評議員3名選任の件

議長が、第2号議案を議題とし、事務局に説明を求めたところ、山口耕右事務局長が、本年の定時評議員会終結の時をもって現評議員9名のうち1名が任期満了となり、また2名が任期途中での辞任を申し出たため新たに候補者3名を提案し、議長は候補者ごとに名前を読み上げ審議した。

審議した結果、次のとおり選任を出席評議員全員一致で可決した。

(新任)

岩崎 貞治、大山 和輝、門杉 健一

任期は選任された日から令和5年定時評議員会の終結の時まで。

尚、任期満了による退任者1名と任期途中での辞任者2名は次のとおり。

(退任)

佐藤 誠

(辞任)

高田 仁、深野 裕一

③第3号議案 理事8名選任の件

議長が、第3号議案を議題とし、事務局に説明を求めたところ、山口耕右事務局長が、本年の定時評議員会終結の時をもって現理事9名のうち7名が任期満了となるため、再任候補者6名と新たな候補者1名を提案し、また別に1名の理事が任期途中での辞任を申し出たため新たに候補者1名を提案、併せて8名につき、議長は候補者ごとに名前を読み上げ審議した。

審議した結果、次のとおり選任を出席評議員全員一致で可決した。

(再任)

西川 俊孝、門脇 則子、山口 耕右、小南 康隆、柴田 仁、土屋 正春

(新任)

毛利 裕明、山口 光浩

任期はいずれも、選任された日から令和3年定時評議員会の終結の時まで。

尚、任期満了による退任者1名と任期途中での辞任者1名は次のとおり。

(退任)

安田 博明

(辞任)

三田 和司

(5)報告事項

①平成30年第3回理事会報告等について

西川俊孝理事長が、平成30年8月7日開催の平成30年第3回理事会冒頭で、報告1「吹田市議会5月定例会への経営状況の報告での誤った資料提出について」の経緯説明と今後の再発防止策及び猛省に立った各職員の意識改革と規律正しい組織運営の徹底を、また報告2「大阪府北部地震に対する被害と対応について」では同地震によるプラザの被災状況とその後の対応施策の報告を行ったこと、また同報告にも関連する第7号議案「吹田市資源リサイクルセンタ

一大屋根の復活に関する要望書の件」、また第8号議案「公益社団法人及び公益財団法人認定等に関する法律第11条第1項に規定する変更の認定申請に関する件」で、プラザの実施する地球温暖化防止動画コンテストの事業カテゴリーを「表彰、コンクール」に変更認定申請したことにつき理事会の議決を得た旨、報告した。

②平成30年第4回理事会報告等について

西川俊孝理事長が、平成30年11月15日開催の平成30年第4回理事会冒頭で、地震災害時の危機管理対応に関わる情報収集や、半年の工期に亘る吹田市資源リサイクルセンターの外壁工事、新たな試みである「くるくる環境スクール」、またリサイクルという概念の再定義の検討の必要性等、7項目について報告を行い、これに引き続き平成30年度の公益財団法人千里リサイクルプラザ上半期事業報告並びに平成30年度第2四半期までの決算及び監事監査の状況について報告し、また代表理事及び業務執行理事の「職務の執行状況報告」をした旨、報告があった。

③平成31年第1回理事会決議等について

西川俊孝理事長が、平成31年3月25日開催の平成31年第1回理事会で、第1号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ事務局組織規則の一部改正の件」は、平成30年11月に財団HP及び平成30年第4回理事会での報告に基づき、リサイクルという表現を3Rにおける再生利用に限定して運用するという方針に沿った該当文言の改正であること、また第2号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ市民研究所設置規則の一部改正の件」も同趣旨による該当文言の改正であることを報告した。さらに第3号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ嘱託職員給与規則一部改正の件」として、給与額及び賞与支給率を改正した旨の報告、第4号議案「平成31年度(2019年度)公益財団法人千里リサイクルプラザ事業計画及び収支予算等の承認の件」が承認された旨を報告した。

また、代表理事及び業務執行理事の「職務の執行状況報告」をした旨、報告があった。

④令和元年度第1回理事会決議等について

西川俊孝理事長が、新元号の下で会計年度ベースに呼称変更した令和元年5月14日開催の令和元年度第1回理事会で、第1号議案「平成30年度(2018年度)公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告及び決算の件」及び第2号議案「令和元年(2019年)定時評議員会招集の件」について原案どおり承認された旨を報告した。

次に議長がその他報告事項として、平成29年3月に策定したプラザ中期計画の2年目となる平成30年度の進捗状況について説明を求めた。

山口耕右事務局長より、プラザ中期計画については毎年度、理事会、評議員会で実施状況を報告する旨の説明があり、続けて上川善一郎主幹が基本方針に基づく施策計画毎に重点取り組み課題を掲げ、具体的な取り組みの進捗状況と自己評価について報告した。

報告が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、三輪信哉評議員より、現行の中期計画に続く次期中期計画策定の準備を始めるべき時期に差し掛かっていると思うが、世の中の2Rへの流れの中で財団名称に冠されたりサイクルという言葉が、近い将来プラザの啓発活動を制約する事態を招くことも考えられ、次期中期計画ではこの件につき早めに組上に載せ、反映の是非を検討すべきと考えられること、また併せて世界の潮流であるSDGsの理念を反映した内容を盛り込み、

プラザの担う若年層からのライフスタイルの見直しに繋がる啓発活動の推進に寄与すべきではないかとの意見があった。この意見について、西川俊孝理事長より中期計画の見直しについては中間見直しの時期に差し掛かっており認識を同じくしていること、また財団名称については、プラザ設立時期のリサイクルはすべてを包括する言葉だったが、現在では循環型社会や持続可能性という考えに基づき、3Rの中で再生利用と限定し使用されていることを踏まえた上で、名称に含まれるリサイクルという言葉は一方で施設名称である吹田市資源リサイクルセンターにも含まれ、変更にあたっては吹田市と歩調を合わせながら問題意識を共有し検討していく必要があるとの意見があった。土屋正春理事からはSDGsへの対応は世界中の組織が取り組むべき課題であり、我々も知恵を絞りこれに対処していかねばならないとの意見があった。中嶋勝宏評議員からは、環境行政の担当部長の立場で、リサイクルという言葉の捉え方は吹田市もプラザと認識の方向性を同じくしているが、変更には手続き、費用等の問題があり一朝一夕で実施できるものではない。また財団名称と施設名称で変更時期が相違するようなことは想定できず、他にも愛称である「くるくるプラザ」も変更を余儀なくされるのではないかとの意見があった。同氏からは評議員の立場としては、吹田市の第4次総合計画や環境部の環境基本計画と同様に、財団の次期中期計画には可能な限り数値目標を定めて、PDCAサイクルで定量分析がなされるように希望すること、またSDGsについて吹田市ではカード作成やバッジの着用で意識を高める取り組みを行っており、プラザにおいても環境啓発のトップランナーとして同様の取り組みをお願いしたいとの意見があった。柴田仁理事からは、昨今、企業では中期計画は3年を期間とし、これを1年毎にローリングさせ成果達成を確認していく手法が一般的であり、プラザでも同手法の検討、及びSDGsについては、ビジネス界では既に必須条件であり、プラザにおいても担うべきSDGsの目標の明確化と分かりやすい関連付けが必要であるとの意見があった。

以上をもって議案の審議等を終了した後、午前11時00分、議長は閉会を宣し、解散した。

この議事録が正確であることを証するため議長、議事録署名人及び理事長が記名押印する。

令和元年5月29日

議 長 内 田 慶 市



議事録署名人 坂 田 俊 之



議事録署名人 三 輪 信 哉



理 事 長 西 川 俊 孝



本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名

公益財団法人千里リサイクルプラザ

事務局参事 天 野 美 晴

総務担当 上 川 善 一 郎

